

令和5年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和5年7月31日(月曜日)午後2時から午後3時45分まで

<開催場所> 宇治市役所8階 大会議室

<出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
平井 恭子	京都教育大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
浅山 尚紀	京都府山城広域振興局 局長
小林 幸広	株式会社京都銀行 宇治支店長
木村 正樹	連合京都南山城地域協議会 幹事
藤田 治久	株式会社京都新聞社 南部支社長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民公募委員
日野 真代	市民公募委員

計12名

<事務局等>

川口 龍雄	宇治市 副市長
荻野 浩造	政策企画部 部長
大北 浩之	政策企画部 副部長
佐々木 卓也	政策企画部政策戦略課 課長
上田 敦男	政策企画部政策戦略課 副課長
藤丸 博克	政策企画部政策戦略課 係長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課 主任
辻 優貴子	政策企画部政策戦略課 主任

計8名

<会議次第>

1. 開会
2. はじめに
3. 議事
 - ・ 第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価報告書(案)
(令和4年度事業)について
4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

《委員長より開会の挨拶》

2. はじめに

《事務局より挨拶》

《新委員の紹介》

《事務局の紹介》

3. 議事

第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価報告書(案)
(令和4年度事業)について

《委員長より会議公開・傍聴の連絡》

委員長) それでは、これから私の方で会議次第により進めさせていただきますが、会議の開会にあたりまして、川口副市長よりご挨拶の申し出がございましたので、よろしく願いいたします。

《川口副市長から挨拶》

委員長) どうもありがとうございました。それでは次第に基づきまして、まず第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価報告書(案)(令和4年度事業)について、事務局から説明をお願いします。

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございました。では、ただいま説明がありました部分についてご質問、ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。主としてアンケート結果について、

ご質問、ご感想でも結構です。

委員) アンケートを見させていただきました。わかりやすくまとめてくださって見やすかったです。今更ですが、先ほどご説明がありましたように「余暇を楽しむ場所の充実度」が一番できたら若い人達にもいいのかなということですが「余暇を楽しむ場所」について、具体的に聞いたことがあったかなと思ひまして、人それぞれ、世代によっても余暇の場所と言われたときに思い浮かぶものが違うと思ひて、充実させるという話になったときに、具体的に何を充実するか難しいと思ひます。今までそれについて具体的にあげてきた記憶がないですけれども。あとやはり、コロナ前とコロナ後で「余暇」という意味合いがもしかしたら違ってくるのかもしれないので、そこが疑問になりました。以上です。

委員長) 今まで宇治市としても余暇というものをどういうふうに調べたり捉えられたり、何かそういうものはありますか。

事務局) 令和元年度に実施しました、第2期創生総合戦略を策定する際に行ったアンケート調査の中で、「宇治市にあればうれしいもの、宇治市に必要なだと思うもの」を具体的にお伺いしているところがありました。場所という観点から少しずれるところもありますが、上位で言いますと「商業施設や飲食店」が1つ目、次に多かったのが「レジャー施設や大きい公園」、3つ目に「公共交通機関」がきておりまして、4つ目に「花火大会やまつり」、5つ目に「道路整備」となっております。この時にも大きな公園は回答内容として挙がっておりました。ただ、コロナ禍で少し皆様の感じ方が変わった可能性もございますので、具体的な内容については、また調査をさせていただく必要があると考えております。

委員) 言葉遣いかも知れませんが、アンケート調査の結果を拝見して、満足度の対極の期待度がありますが、例えば4ページ目の子育て世帯の満足度ランキングのところを見ると「買い物の利便性」の満足度が高く、44.9%。一方で期待度の方でも「買い物の利便性」が49.5%。この期待度というのは、今後よくなっていくのを期待するという部分なのか、期待してもしようがないから低く答えるのか、私の捉え方なのかもしれないですけど、この期待度をどうまとめられるのかということをお教えください。

事務局) 期待度と満足度、相反するようではございますけども、この満足度についても人それぞれある中で、宇治市と他市、京都市や大阪市などと比較されているところもあるかと思ひますので、さらに宇治市が良くなるということで、期待度でも同じように上位に挙がっていると思ひます。今後、満足度が高いからといって、そこに甘んじるわけではなく、期待度も認識しながら、さらに施策を強めていく必要があると思ひます。

委員) 先ほどの余暇を楽しむ場所についてなんですけど、個人的に宇治には結構あると思

っています。太陽ヶ丘や植物園、世界遺産も2つありますし、宇治川周辺の自然もあります。だから活用できていないのかPR不足なのか、そういう側面も大きいのではないかという気がします。茶づなも人を集めるための催しみたいなものが不足しているとか、植物園にしてもいい施設があるのに人が期待ほど来ていないのではないか、場所がないのではなく活かせていない気がしますが、その点はいかがお考えですか。

事務局) 宇治市の中でもそういった資源はがあると我々も認識しておりまして、茶づなでは広場でマルシェ等も開催しており非常に盛況です。ただ、ご指摘のようにPRが不足しているのではないかとこのところにつきましては、運営事業者に旅行会社や様々な媒体と調整や連携をしていただいて、それを今後さらに発信し、知って、来ていただき、楽しんでいただくことは非常に重要な観点だと思いますので、そのようなところに力を入れていくべきだと感じております。

委員) 観光客のための施策と市民のための施策というのが、同じ場合もあるでしょうし、ちょっと違う場合もあると思います。同じ催しをされたとしても、観光客を集めるためと、地元の市民の方々に楽しんでもらうためと、両方の支援を今後やっていかれたらいいと思います。

委員) 普段自分の時間をどう使うかについて話を聞いたことがあり、イベントを楽しむ人や、余暇といった時は、自分の楽しみを過ごす時間と言っていた人もいて、例えば自分が何かものづくりをしたいときに自分の1人の場所があればそこで何か作業をしたり、何か作ったりすることができるとか、図書館でもなかなか勉強をすることはできないので、自分が自由に使える空間があって、大人も子どもも勉強できたり、余暇の楽しみ方ができる場所があればいいなということをお聞きしたことがあり、イベントを楽しむものもあれば、観光で来られる方の楽しみもあれば、この地域で住んでいる人が地域でちょっとした時間を楽しむというように、余暇はいろいろあり、ものすごく幅広いことかと思いました。

委員長) ありがとうございます。いろいろアドバイスをいただきましたので、今後の施策展開のご参考にさせていただければと思います。他に何かございますか。よろしければ、この先のご説明をお願いいたします。

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。では今ご説明いただいたことに関して、ご質問やご意見、お願いいたします。

委員) KPIを高めるために大変なご努力をされて、数値の改善などで見えている部分も

あるのですが、いろんな施策、特に子育て、環境づくり、暮らしやすさ、観光客の誘致などを挙げていただいているんですけども、私がこの間、源氏物語ミュージアムと大吉山に行こうと思って、母もいて足が悪いので車で行ったら、近くの駐車場が全部閉鎖されていて車が止められなかったり、宇治神社の方に車で行こうと思ったら離合ができないことがあったり、太陽ヶ丘でイベントがあると、渋滞で車が動かなかったりっていうことで、とても道路事情がよくなく、せっかくこういったいろいろな施策をしても、大型のバスが止められるスペースが少なかったり、もうちょっと道路の事情がよければ、もっとこの数値を高められるのではないかと思ったり、また産業の誘致にしても、道路事情が悪いからなかなか誘致につながらなかったり、また通勤の朝、宇治橋通りも宇治橋の手前で渋滞が起こっていて、通勤に非常に時間がかかるとか、そんなことも、こういったK P Iの数値を上げるうえで障害になっていくのではないかなと思うんですけども、そのあたりはどうでしょうか。

事務局) 例えば宇治橋周辺の道路事情については、市外からお越しになる観光の方もたくさんおられますし、宇治川をはさんで宇治市は東と西に分かれてございまして、主な橋が三つほどしかない中で、道路事情、中宇治周辺の渋滞について、新名神の開通も含めまして我々も取り組んでいきたいところではありますが、道路事業はいろいろな調整も含め、割と時間がかかります。そういった意味でも住んでいただいている市民の皆様には快適な生活環境をどう構築していくか、そこは大きな宇治市としての課題、まちづくりの一番大事なところだと思いますので、時間はかかりますけれども、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。

委員) 教育環境が、安心して子どもたちを育てていける環境があるっていうことが、転入や、宇治で子育てをしたいと考えている親の願いであるっていうことがアンケートの結果からも読み取れると思います。そうした時にちょっと最後の数字が気になったのですが、家庭学習の定着度で、家庭学習の勉強時間が30分に満たない子どもが全国平均よりも結構高いような気がしています。さらに最近、10日ぐらい前の新聞に載っていた宇治市内の児童生徒、小学生の暴力事件が急増しているというような記事で非常に心を痛めています。コロナ禍も終わって、感染が終わったわけではないのですが、いろんな活動が再開してきて、子どもたちの行動範囲も広がったり、人との交流が増えたりというのが一つの原因ではあるかと思うんですけど、気持ちの上でざわざわして落ち着いて勉強できない、どうもそういうふうな問題が教育現場でまだあるのではないかということで、これからどんどんまた運動会や2学期に入るともっと人との交流が増える中で、事件的なものが増えるんじゃないかということで、これから人との交流を安心して、人間関係をしっかり作っていくことが小学校ぐらいの時期に必要なことなので、まちを挙げてそういった安心安全な教育環境を作っていくために、例えば子どもの居場所づくりだとか、それから教育相談、子育てに困っている親に対する援助とか、そういったことはどういうふうこれからやっ

てくのか、施策があるのかなっていう、もう取り組んでいることがあればちょっとその辺をお聞かせいただきたいなと思いました。

事務局) コロナの中で、学校ではマスクや黙食など、子どもは非常に窮屈な生活や学習環境を強いられてきたと思っております。それが今後ポストコロナという形で進んでいく中で、学校環境の中でのICTの活用を現在進めているところです。令和5年度の予算では、学力の課題解決のために学力調査による分析データを活用して学力定着度を測り、家庭学習の定着を図るための事業を進めているところでございます。ICTという部分の新たな分野の活用と、教育や地域が対面でしっかりと子どもさんの状況や心情がわかるような取組の双方を進めていくことが大事かと思えます。そういったケアや学力・学習環境については、しっかりと宇治市としてできることを進めていきたいと考えております。

委員) 6ページにKPIの全体像をお示しいただきまして、非常にわかりやすく達成状況全体の進捗が示されていて、非常にありがたいなというふうに思っています。おそらくこのKPIの指標があって、達成が26もあって、達成率が60%以上の項目が64%とのことなので、全体としては順調というところをされていると思えますし、これだけの結果を出せるということは皆さんもそうだし、現場にいらっしゃる皆さんのご努力あってなので、これは素直にすごいなという印象は持っております。一方で、やはり60%に達成していない項目が32もあるというのも現実だと思えますし、このところがこれからの大きな課題だと推察するんですけども、先ほどご説明いただいた評価と課題の表現、印象的な事なんですけれども、「これとこれができました。できてないことについては、引き続き云々」みたいな仕立てですと全編やったのが、イメージがされているのですが、やっぱりできてないものはできてないんだと思うんですね。行政文書として、なかなかこれはできていませんというのは盛り込みにくいだろうと思うんですけども、できたことはできたこと、でも、できなかったことはどうなんだという現状認識をもう1回整理できるのであれば整理されて、それに対してこうやるんだという形の表現の方が民間的にはリアルかなと思ったりして、表現がなかなか難しいなと思えますが、そこを「引き続き云々」だけでさらっとかわしているみたいな印象になることもあるので、あえて言えばそんな感じで、全体としては順調にしているのかなと思います。

事務局) KPIの達成状況という形でお示しさせていただいておりますが、KPIは第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した当時のものでございますので、社会情勢、コロナというところも変容しており、この目標数値が本当に今の時代に合っているのかというところは見直すべきかと思っております。その中で、達成できていないところについて「引き続きしっかりやっていきます」という表現がどうかというところは、ごもっともなご意見かと思っておりますので、どのように課題を見出して、どういった施策を強めていくか、もちろん第六次総合計画の中でも重点施策として位置づけているところと関連もしてきま

すので、市として総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略というのは関連づいておりますので、今後の表現や中間評価、最終的には総合評価をしていく中で、見直してまいりたいと考えております。

委員長) なかなか達成できなかった部分を認めるのは、認めづらい部分がありますが、できなかったのにはそれなりの理由・原因があるわけですので、理由・原因がしっかり分析されていれば、できていなくても今後に期待ができるので、そういう書きぶりもあっていいかと思います。また、工夫していただければと思います。他、いかがでしょうか。

委員) 子育てサークルそよかぜっていうのを作らせていただいて、子育て世代の親御さんたちと触れ合うことが最近増えてきたんですけど、宇治は子育てしやすいですかっていうふうに聞いたら、お世辞抜きに本当に皆さん、子育てしやすいですっていう返事が返ってくるんですよ。逆に困っていることはないですかっていうふうに聞いたら、やっぱり今後子育てをしていく中で、仕事を続けていくっていうのが一つのキーワードになっていて、自分も子育てが終わったらもう一回社会に出て働きたいし、ぜひ宇治の企業でいいところがあったら働きたいっていうふうな、お母さんのご意見がすごく多いんです。それで26ページのところに、宇治市主催で合同企業説明会を実施されていて、実際4名の採用に繋がったと書いてあるんですけど、私のアンテナがあまり高くなかったせいか、実際にどれぐらいの頻度で開催されていて、どれぐらいの企業様が参加されていて、そこに例えばそういう子育て世代の人たちも参加させてもらっていいのかどうか教えていただけたら、私もそういう子育てサークルでそういう情報を共有できるのでありがたいなと思ったのが、まず1点あります。

もう1つ続けて、よろしいですか。2つ目なんですけれども、宇治市健康づくり食育アライアンスU-CHAっていう団体の代表をさせていただいておまして、今おかげさまで91団体になりまして、100団体まであと一歩っていうところに数的には迫ってきているんですけど、コロナで改めて健康づくりに栄養や運動プラス人の繋がりがっていうのがとても大切だっていうふうに言われるようになりまして、ぜひ今後の計画の中に、人との繋がりがっていうものが健康づくりやいろんな心身の健康に繋がっているということを改めて皆さんに感じてもらったり、実感してもらえような、そういったものを施策にぜひ入れていただきたいなあと思っているんです。実は昨日、畑で万願寺とうがらしととうもろこしを収穫して、それをなんと宇治川沿いにあるお店で料理してもらって、みんなで食べるという、うーちゃ学校を開催させていただいたんですけど、実は定員の倍の申し込みがあって、すごい大人気だったんです。何が言いたいかと言いますと、小学生の親子が対象なんですけれども、小学生を持った親御さんの食や健康に対する意識が、私たちが思っている以上に高いついていうことをまずお伝えしたかったことが1点と、2点目は宇治の槇島っていう、JR宇治駅から歩いていけるとところに農業をされている皆さんがいらっしやるっていうことを実はご存知ない方が多いんですよ。私、農業っていうキーワードがもうこれ

からすごく大切なんじゃないかなと思ってまして、例えば教育であったり、例えば観光であったり、例えば健康づくりであったり、就農であったり、この農業っていうものがすごく可能性を秘めているんじゃないかと思ってまして、国の農業に関わる担い手の法人化の指数が書いてありますけれども、ぜひその宇治市さんで農業っていうものをキーワードとして、戦略的に今後考えておられるものがもしあれば、今おっしゃっていただける範囲で結構ですので、教えていただけたらなというふうに思いました。ちょっと長くなりましたけど、2点お願いいたします。

事務局) 合同企業説明会ですけれども、令和4年度につきましては1回の開催ということで、参加企業18社に参加いただいております。この時の対象者は2023年と2024年の3月に大学・大学院・短大・専門学校の卒業予定者と既卒者となっておりまして、新卒のあたりの年代を対象にしたような説明会として開催しております。求職者は26人の参加、4人の内定者となっております。

事務局) 農業の関係ですが、産業戦略の中でもやはり農業を位置付けておりまして、宇治市の農業は、苺を作っておられたり万願寺とうがらしやとうもろこしも皆で頑張ろうと地元の近くでやっておられるのですが、なかなかアピールが足りないのかなということもありますので、農業の施策として、若手の農業者さん、やる気、意欲をお持ちの方に、いろんな支援策を拡充もしております、あとはそういったことをお子さんたちに知っていただくのが大事なと思います。取組を進めていく中で、身近な農業について、ここでこんなお野菜作っていることを知って、近くのお野菜を買うとかお子さんが言ってくると、お母さん方の財布のひももうまいこと動くかなと思いますし、地域の農業を知っていただく機会を作っていくのが大変大事だと思っていますので、産業戦略の中でも位置付けながら進めていきたいですし、農地を守っていくことは土地を守っていくという大変重要な環境の側面もございますので、市としてはしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

委員) さっきの合同企業説明会のところですけど、最近転職の商業をよくやっていて、今の若い人たちには転職というのも一つのキーワードになっていると思いますし、若いお母さんたちの中でも市内で就職できたらいいなって思っておられる方もいらっしゃるみたいですので、もしよかったら、そういった転職や再就職したい方向けの説明会もしていただけたらありがたいなと思いました。2点目の農業なんですけど本当に食というのは、生きる力と直接繋がっていると思いますし、若い方々は健康意識が本当に高く、「新鮮でおいしいものがどこで買えますか」とよく私も聞かれるんです。私ももっとPRしていきたいと思いますし、宇治市の方でもぜひ農業の施策の方を進めていただけたらと思います。ありがとうございます。

委員) 初めての参加なので、これは戦略の策定の中で議論されていたら申し訳ないんです

けど、ちょっとお聞きしたいんですけども、説明の中にもありましたように、コロナが5類に見直されて、徐々に日常生活に戻る中で、観光客、日本人も戻ってきているのかなと思いますし、コロナ前以上というような話もある中で、特に観光振興については非常に大事な時期なのかなと思います。そういう意味では、しっかりと観光客の数だけでなく、ここにも書いていただいているんですけどもしっかり人口を増やしていく、関係人口を増やしていく、それから質の高い観光振興を進めていく、これ非常に大事ななと思っております。9ページですけども、宇治に落としていただく平均観光消費額のKPIについてお聞かせいただきたいんですけども、宇治市さんの戦略では目標値1人当たり4,700円ということですけども、非常に低い。宇治市さんだけでなく京都の観光振興も、しっかりと観光消費額を上げていくことが課題かなと思うんですけども、基準値そのものが少なく目標値も少ないのかなと思っています。確か全国平均の1回当たりの観光消費額は宿泊も含めて3万くらいだというようなことで、日帰りだけの観光消費額でも1万7千円くらいだったかなと記憶しているんですけど、この中でしっかりと観光消費していただく観光客の方に、宇治でお金を落としていただく、それが宇治の地域の地域創生に繋がっていくんじゃないかなと思うんですけども、実際の4年度の観光消費額、6,200円と結構高いので、この辺の目標値をもう少し高く持たれてしっかり取組を進めていくというような思いがあるかどうかということだけ聞かせていただければと思います。

事務局)平均観光消費額につきましては、宇治市観光動向調査を行い、宇治市に来られた観光の方にアンケート調査で消費額についてお聞きしている項目がございまして、飲食費や宿泊費、交通費、お土産、物を購入された合計を、1人当たりの消費額としてここにお示ししております。全国的には低いということで、宿泊施設の少ないことや、滞在時間数も京都市などに比べて短いところも課題だと捉えておりますので、目標値がこれで適切なのかということころは、観光動向調査を行う中で、数値が適正なのか、今後インバウンドも回復していくという見込みもございまして、宇治市が今後の観光振興として目標を高く持つということは大事だと思っておりますので、ご意見いただいたところを含めて、検討してまいりたいと思います。

委員)ありがとうございます。ぜひコロナが収まる中で、観光客、インバウンドも含めて、戻ってくるのは間違いなく戻ってくるのかなと思いますし、京都市なんかは完全にオーバーツーリズムっていう状況に戻ってくるかと思っております。その中でしっかりと京都市以外のこういった宇治市でそういった観光客を受け入れて、しっかりと質の高い観光振興を進めていただく、周遊滞在型の観光振興を進めていただくというのが非常に必要なと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員)先ほどの委員の話ですけど、実は源氏千年紀っていうのが2008年にこの京都の方でありました。その時の宇治市の観光入込客数も実はその時だけぽつんと飛び出ていま

した。というので、来年の「光る君へ」、NHKの大河というところで、また一つ波が来るのかなと思っております。と同時に、聞いていますと、小倉地域で任天堂資料館が3月にオープンされるとか、この山城地域、京都府全体でも宇治市は実は観光に対するコンテンツは多々あるんですよ。売り込む素材っていうのが多い中で、実際に来ていただくっていうのもあるんですけど、先ほどおっしゃったように、必ずオーバーツーリズムという言葉が出てきます。その中には、駐車場問題や交通渋滞とか、それから昼食を食べるところがないとか、そういう問題が出てくる中で、地元の方が自慢できるまちにしていかなければ、当然来られた観光客のただ混みではないかみたいな不満もあるんですけども、観光の面で地元の方の理解、地元宇治市民がようこそとウェルカムな感じの姿勢作りっていうのも一つ必要なのかなという中で、閑散期と繁忙期がございまして、閑散期の時は何をしようかなとか、繁忙期の時はもう目を開けられないっていうような波がございまして。これは京都市内でも夏と冬の枯れというのがあるんですけども、その中でどうバランスを持っていかかっていうようなところを今後考えていかなければいけないのかなと。来てね来てねばかりではなくて、来られた方にどう印象を持っていただけるかと、受け入れるシビックの考え方っていう部分についても、どこかで一緒になって考えていかなければいけないかなという危機感と希望感と、両方クロスしているんですけども、考えていかなければならないのかなと感じております。以上です。

委員長) 観光については、観光施策という形でやるのが非常に重要ですが、今委員のご発言にありましたように市民が観光に対してどういう理解、認識をしているかということが非常に重要になってくるかと思えます。古来観光は国の光を見ると言いまして、国が光っていないと見に来たお客様は失望してしまいますので、市民が光り輝いていくということが重要かなと思えます。ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。他に何かございませうか。

委員) 宇治の企業で働いている者としては、まず先ほどありました宇治市主催の合同企業説明会は新卒を対象としているということなので、先ほど観光のところでは閑散期繁忙期と言われていましたが、宇治のいろんな企業にもやっぱり年間忙しい時期ありますので、宇治の方で新卒だけでなく、中途採用の方も今保険会社の方やいろんな企業が採られていますが、その繁忙期だけっていうところが多いです。そういうところも含んだら、やっぱり地元の方、先ほど言われた子育て終わったお母さんが仕事する場ともうまく繋がっていくかと思えますので、親が宇治の企業で働くと、子どもも見て育て、お父さんお母さんの仕事したいなって影響されると思えますので、そういうところも進めていただければいいのかなということと、また、市民の中には身障の方々もいらっしゃると思えます。そういうところも今企業としてはすごく、発展して進めていますので、ぜひ連携して進めていただければいいのかなと思えますので、よろしくお願ひします。若者を見ていると転出の方が多く転入が少ないっていうところにも、そういった影響があるのかなと思えますのでぜひ進めていただければと思えます。ありがとうございます。

副委員長)今回KPIの達成状況ということでお示しいただいて、比較的、我々が携わっているところの部分については、結構達成している部分が多いのかなという結果に少し安堵はしております。ただ今日、合同説明会とか、いろいろとご指摘いただきましたので、またそちらの方も宇治市の産業振興課ともそういう施策の展開を今後考えていかななくてはいけないのかなと思っています。また、宇治市中心に今小学生、中学生の親子を対象に、ものづくり企業がどのようなことをしているのか、ものづくりの企業ツアーとかものづくり企業フェスというの企画しております、夏休み期間中にやっていただくんですけど、非常にニーズが高く、すでに締切になっているような状況で、少しでも宇治の企業を知ってもらうような取組も行っています。また、創業支援の方もかなり力を入れてやっているつもりなんですけれども、目標達成率だけよかったとしても、実際はそれがどう企業の発展に繋がっていくのかということで、やはり企業数が増えたり、そういう結果を我々も視野に入れて、気にしていかなければならないと思いましたので、この目標の達成だけではなしに、もう少しスパンを長く、10年、20年スパンでやっぱり考えていかなければいけないのかなというのを再認識した次第でございます。1点だけ教えていただきたいんですけども、社会動態で転入・転出を引いた数字が151、またその前年は748と最終の数字はお示しいただいているんですけども、その転入と転出がどれくらいあったというのを教えていただければ、差だけでしたらイメージがつかないので、お教えいただければありがたいと思っております。

事務局)社会動態の内訳ということで、令和4年の1月から12月の人口増減で見ますと、転入の方が6,464、転出の方が6,615ということになりまして、その差で-151というような内訳となっております。

委員)子育て支援の現場にいますので、そのあたりで気になるところだけ。32、33ページの子育て支援のところ、3の子育て支援環境充実事業ということで地域子育て支援拠点事業の受託運営をさせていただいております。先ほどのお話もありましたけど、お母さんたちの中で、宇治ってすごく子育て支援を進めていていいっておっしゃる方は本当に多いですし、私もそう思っています。その一方で、今私は複数課題のあるご家庭、18歳未満のご家庭に訪問行くということも受託でさせていただいております。その中で、国もヤングケアラーとかいろいろ言っていますけれども、実際にこういう状況なんだとか、見えるところなんですけれども、33ページに学習環境等充実事業で家庭学習の定着度っていうお話ありまして、確かに子どもがただ勉強をしないっていうこともあるのかもしれないんですけど、実際にご家庭に入らせてもらう中で、家庭が学習できる環境にあるかどうかっていうのがすごく大きい問題だと感じる事が多くて、項目立てとしては別々でもいいのかもしれないんですけど、その中の施策としては、学習環境と子育て環境は切り離せないんじゃないのかなというふうに感じたところです。以上です。

事務局) 学習環境というところと、そういったところは別項目の方がいいのではないかということのご意見だったと思います。先ほどのご意見があったように、コロナの中でいろいろ子どもさんの能力的なところもあったりとか、そういった意見があたりとか、本当に定着度として、学習時間が全国的に下回っているような形っていうところもありますので、そこをどういうふうに見せていくかっていうところは、今後ご意見いただいた中で、どういった形で表現できるか工夫してまいりたいと考えております。今までの令和4年度の事業として、こういった形を示させていただきますので、第2期の総合戦略の間はどういった表現がふさわしいかというところは検討したいと思っております。

委員) ありがとうございます。ここに書かれてほしいとか、それは特にいいと私は思っているんですけど、現場にいる人間として、やっぱり本当に自分が勉強する時間がなくて、弟や赤ちゃんの面倒を見ているとか、そういう家庭環境的なところで本当に困っている子どもたちも実際いるので、ぐちゃぐちゃにするときつとわからないのだろうけれども、そういう家庭の方に勉強っていうところじゃなくて、別の施策としてそういう家庭を支援するというのが、これから盛り込まれたらいいなというふうに思っています。以上です。

委員) 難しいかもしれないですけど、今お話のあった学習環境等充実事業ですか。これそれぞれの達成度を上げていくのはもちろん大事だと思うんですけども、目的のところを見ると、「学力向上に向けた取組」などという表現があって、個々の取り組みの達成度を上げるのはもちろん大事なんですけど、学力が上がったのかというのが多分保護者の一番の関心事じゃないかなと思うんですよ。学力を何で測るかっていうのは、なかなか難しい。もう今や高校進学なんてほぼ100%に近い数字だろうと思うし、その上で大学進学率で測るのか、一番わかりやすいのは今全国的に全国学力テストというのがあって、都道府県別には成績があって、ああいう数字で測るのは、どうなのかという声ももちろんあるうかと思うんですけども、一つのわかりやすい見方として宇治市の学力が、毎年ちょっとずつ平均点が上がっていますよってというのが示せるんだったら示した方がいいんじゃないかなと。このそれぞれの達成度の結果として、確かに学力は上がっています、あるいは、ちょっと伸び悩んでいますというのが、これは保護者にとって最大の関心事で、転入するにしてももし上がっているのであれば、大きな売りになると思いますので、子育て世代に宇治市に転入してもらうには、宇治は学力が京都府内でも高い水準ですよってというのは売りになるんじゃないかなと思うんで、そういうことをご検討いただいてもいいのかなというふうに思います。

事務局) 学力テストでいろいろな平均を取る形で今の宇治市の学力が全国と比べられるのは確かに大事な側面もございます。ただ一方で、学校によって様々ですけども、実はたくさん点を取っているお子さん方もおられれば、逆に、言い方が悪いんですけど少ししか取

れてないお子さんもいて、それを平均すると、学力がどの辺になるのかっていうのは地域的に見えてくるので、先ほど委員がおっしゃったみたいに、ここで普段、やっぱりなかなか勉強できないような環境におられる子たちをどうしていくか、実はここも一つ大事なところかなと。そうしないと、平均化されてしまって本当の学力の水準がなかなか見えてこないという側面もあるのかなと、そこは教育の方が多分専門でいろいろ実施していると思いますので、そういった中でその学習がなかなか困難な家庭の子達をどう教育として手立てしていくのか、地域としてどう支えていくのか、実はそこも一つ大きなポイントかなと思っておりますので、そういったいろんな学力を上げる取組も大事ですし、そういった学習環境を整えて、子たちにやっぱりその勉強を日々習慣づけていく、そういういろんな手立ての中で進めていくのがいいのかなと思っております。

委員)でも、そういうあまり学習しない子どもたちがこの取組によって学習する習慣がいたら当然点数も上がっていくわけだから、やっぱり全国学力テストの数字もある意味、参考というかこういう事業が達成されているという、一つの大きな目安ではあるかと思えます。

事務局)はい。そういった意味で教育の方も、なかなか家庭学習がしんどい状況のお子さん方、そういう家庭の皆さんにも、例えば自転車で行ける距離のところ、学習環境を作る場という事業も今やっておりますので、そういった取組を増やしていく中で、今委員がおっしゃったみたいに、結果的に学力テストに反映できるように市としても頑張っていきたいというふうに考えております。

委員長)はい、ありがとうございました。本会議の役割というのが、この総合戦略の中で示されましたKPIを中心に、目標がどの程度達成されているのか、進捗を管理するといえますかチェックするということなところに、少々重要なものがあるんですけども、そういう意味でいきますと、このKPIに関する限り、新型コロナウイルスの蔓延というような非常に難しい環境があった中でも比較的順調に達成しつつあるということがいえるのかなと思います。ただこういったKPIっていうのは本来、日本語では重要業績評価指標と言っていますが、英語ではアウトカムと言われているような、直接どれだけの仕事をやったかという実績よりは、もう少し社会に対してどういう効果があったのかを見る指標というのを設定するのが、そもそもの目的だったんですが、なかなか適切な指標というのが見つからないっていうのが現実問題としてあって、そういう意味では、今回の宇治市も含め、全国の総合戦略のKPIの中には、本当にこのKPIでいいのかという数字があるのも正直否定できないところはあります。従って単に数字が達成できたらそれによしと言うわけではありませんが、まずは設定したものがきちっとできているかということをチェックし、その限りでは、中間評価ではほぼ順調にしているんで、この調子でいけば最終的に達成できる可能性もかなり高いんじゃないかということだと思います。あと、委員

の皆さんからもご指摘ありましたように、それを達成した時に本当に宇治市にとってどういう意味があったのか、これは冒頭にご説明ありましたアンケート調査の中の満足度のよ
うなものでも書かれるでしょうし、今ご議論ありましたように、例えば教育については、
最終的に何を見ると、本当に宇治市の教育環境や条件がいいのか悪いのかという部分の
議論ができるのか、その辺はさらにまた議論が必要になってくるかと思えます。それにつ
いては、この会議だけで結論が出るものではありませんので、様々なところで議論してい
ただければというふうに思います。まずは総合戦略に基づく取り組みについて、K
P Iを指標にした分析では、今のところ順調に進んでいるので今後さらにその調子で頑張
っていただきたいということで、事務局の方からご説明いただきました報告書の案につい
て、細かなところではいろいろご意見もあったと思いますが、概ねこういう報告内容とい
うことで、本会議としては承ったということでもよろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。それでは全委員の皆さんからもご意見をいただきましたの
で、このあたりで議論の方は、一つ閉じさせていただきたいと思えます。

では事務局の方から連絡事項などございますでしょうか。

副市長)委員の皆様、長時間にわたりましてありがとうございました。皆様から本当に貴
重なご意見を頂戴いたしましたので、意見一つ一つしっかり実践に生かしてまいりたいと
いうふうに考えております。これは先ほど委員長におまとめいただきましたけれども、ア
ウトプットという形での創生戦略に取り組み、我々限られた財源で精一杯努力はしている
んですけども、やっぱりアウトカムという視点で見ますと、例えば、なかなか人口の社
会動態がプラスに転じていない、それから出生数もなかなか増加に転じていないと、こ
ういう厳しい状況にあります。また、全国に目を転じてみますと、先日総務省から人口動態
調査の発表があったんですが、外国人を除く日本人の全体の人口が前年に比べてなんと8
0万人も減っている。これは過去最大の減少幅で、さらに今年の発表数値で初めて、東京
も含め47都道府県すべてで日本人が減少しているという非常に深刻なデータになってい
ることを踏まえますと、やはり宇治市と全国、同じような傾向に今陥っている中で我々も
努力をしているんですが、一つご説明申し上げたいのは、資料の5ページの下のところ
に表3ということで、平成27年度から令和4年度まで8年間の世代ごとの社会動態の数値
を出させていただいているんですが、網掛けの0歳から17歳のところが、人口が増えて
いるというデータになっているんですけども、生まれる子どもは宇治市で生まれるん
ですが、ちっちゃい子どもが1人で宇治市に引っ越してくるわけがないんですね。そこで調
べてみますとやっぱり子育て、お子さんをお持ちの世帯の方は、結構宇治の方に転入をし
てこられる。一方で、いわゆる単身、独身の方がどんどん流出していて、子育て世帯が転
入するよりも、単身の方が転出する数が圧倒的に多いという結果がこのデータになってい
まして、現在、それから将来にわたって、社会をしっかりと支えていただく生産年齢人口の
中心の方にいかに宇治市に住み続けていただくか、もしくは宇治にきていただくか、こ
ういう対策をしっかりと進める必要があるんじゃないかという発想のもとに今、例えば産業立

地の取組、安田地区で進めています。そこでいろんな企業誘致をしてどんどん雇用創出の場を作っていこう。それから観光振興もいろいろ努力しておりますけれども、観光というのはやはり雇用拡大も含めて裾野が広い、波及効果の大きい産業でございますので、何とか観光産業の振興を進めていきたい。それからあとは子育て環境、これは松村市長がもともと京都府の健康福祉部長でしたので、京都府としっかり連携しながら子育て環境をしっかり進めていく。これらの若者の定住・移住促進対策にしっかり今後とも取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。ただ一方で、宇治も行財政環境が非常に厳しい中で、国の方も今まで地方創生というのが全国に跨る大きな国税のテーマだったんですけども、何年も地方創生の取組をしてきて、ネーミングも陳腐化しているところもあって、今後も地方創生の臨時交付金が国の方できっちり財源措置していただけるかどうか不透明なところあるんですけども、我々限られた財源ではございますけれども、しっかり今後とも地方創生の取組を進めて、市民の方に住んでよかった、これからも住み続けていきたい、こう言っていただけるようなまちづくりを進めていきたいと思っておりますので今度ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。それから先ほど委員からお話いただきました道路整備の問題、やっぱり宇治市の今後のまちづくりにとって道路整備、道路改良、道路新設、非常に大事な課題だというふうに思っております。数年後には新名神が全線開通しますので、そこでどんどん人流が進む、そういう方にぜひとも宇治の方に来ていただくためには道路整備が必要なんですけども、やはり道路整備には時間とお金と人手がかかるということで、本当に息の長い問題がありますし、もう一つ、やっぱり幹線道路といえますと、どうしても国道、都道府県道になってしまいますので、道路整備については国や京都府としっかり連携していくことが必要だというような思いを元に今、一生懸命、国と京都府に道路整備をお願いしに行っているところでございます。こういったことも含めまして、宇治市として、限られた行財政環境ではございますけれども、地方創生の取組を引き続き続けてまいりたいというふうに思っておりますので、今後ともご支援ご協力、何卒よろしくお願ひを申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

《事務局より事務連絡》

4 . 閉会

《委員長より閉会の挨拶》